

感染症拡大予防対策をふまえた
臨床美術実施について



Japan Clinical Art Association

特定非営利活動法人

日本臨床美術協会

適切な感染予防で創造的活動を！

2019年末に発生した新型コロナウイルス感染症(covid-19)は、瞬く間に全世界へ拡大し、私たちの想像を超える大変な事態となりました。

ここに感染によって亡くなられた方、ご遺族の皆様には心よりお悔やみ申し上げますとともに、感染された方にはお見舞い申し上げます。

いまだ、多くの感染者が日々報告され、現在も収束の目処は立っておりません。これまでの私たちの日常生活の多くが奪われる事となり、ましてや文化的活動の制限も余儀なくされています。

臨床美術の社会的活動も、中止、自粛の中、苦悩されている会員の方々も多々いらっしゃる事かと思えます。

しかし、コロナ禍が長期化すると想定されるこのような時、気づかぬうちに心理的ストレスもたまってしまいます。このような時こそ、創造的活動によって心を解放する時間を持つことがより重要となってきます。少しでも多くの方と芸術創作活動の時間を共有できるよう、無理のない範囲で活動できることを願っております。

対面形式による臨床美術を実施するにあたり、最優先すべきことは「感染しない、感染させない」といった感染防止対策です。臨床美術では、様々なリスクを抱えている方々を対象としている現場も少なくありません。あくまでも、対象者、対象現場、そして皆さんご自身を大切に行動してください。

日本臨床美術協会では、協会員の皆様が、適切な感染予防のもと、実施できるようガイドラインを作成いたしました。すでに各現場で様々な取り組みや工夫を実践されている方もいらっしゃると思いますが、微力ながらご参考にさせていただければ幸いです。

目次

適切な感染予防で創造的活動を！	p.1
1. 自分を守る感染対策	p.3
①体調管理について	
②日常、外出するとき	
③3つの密(密集・密接・密閉)にならない環境整備	
④食事をするとき	
⑤飲食店を利用する際は	
⑥外出時、休日の過ごし方	
2. 実施前の案内・告知	p.5
①受付時の案内(注意)	
②ホームページやSNSでの案内	
3. 実施準備	p.6
①受付や会場入口	
②会場室内	
4. 会場準備	p.8
①机やイスの準備(セッティング)	
②備品類の消毒・洗浄	
5. 3密を防ぐレイアウト	p.9
会場レイアウト	
6. 会場入室時の流れと注意	p.11
①入室前確認	
②会場入室後	
7. 実施上の留意点	p.13
8. ゴミの扱いと処理	p.14
①捨てる時の注意	
②処理後	
創造の喜びを共有する	p.15

1. 自分を守る感染対策

新型コロナウイルスの感染を防ぐために、二つの視点で考えましょう。

自分が感染しない。他の人に感染させない。

① 体調管理について

体調不良の場合は、無理はせずに休みましょう。

毎朝検温し体調を確認しましょう。

下記のような場合は、臨床美術の実施を中止してください。

体調不良がある：発熱（一般的に37℃以上）、咳、喉の痛み、息苦しさ、鼻づまり、鼻水、だるさ、頭痛、嗅覚異常、味覚異常がある。

新型コロナウイルスの濃厚接触者となった。

家族等、同居人に体調不良がある。

同居するご家族が濃厚接触者になったとき

② 日常、外出するとき

マスクを正しく着用しましょう。

人との接触を極力避けましょう。

普段からこまめな手洗いを励行し、不特定多数が接するところに触れた場合は、必ず手を洗いましょう。口、鼻、目などを手で触らないことも大切です。

咳エチケットを守りましょう。

体温記録表に体温や体調、行動履歴を記録しましょう。

近距離（できるだけ2m 最低1m）での会話は避けましょう。

また大声も控えましょう。

エレベーターの中では会話は控えましょう。

③ 3つの密(密集・密接・密閉)にならない環境整備

換気と入室者数の制限

換気は空気の流れることができるよう、対角線上に2方向の窓を開けましょう。

1時間に2回以上、数分程度窓を全開にします。

窓がない場合は、換気装置をフルにしてドアを開放する、扇風機を利用するなど工夫しましょう。

人と人との間隔をとり、部屋の入室者数を制限しましょう。

普段の清掃・消毒は大切です。

④ 食事をするときは

まず流水で石けんをつけてよく手洗いをしましょう。

複数の人との食事は避け、できるだけ個別で食べましょう。

人と対面にならないように座りましょう。

食事中の会話は控えましょう。

⑤ 飲食店を利用する際は

大人数での会食や飲み会を避けましょう。

大声を出す行動は自粛しましょう。

マスクの着用、手洗い、消毒、換気を徹底してください。

会食等で飲食店を利用する場合には、感染防止徹底宣言ステッカー等の表示に留意してください。

接触確認アプリ(COCoA)のダウンロードや、地方自治体独自の通知システムの利用登録を活用しましょう。

⑥ 外出時、休日の過ごし方

体調が悪い場合は、不要な外出はしないようにしましょう。

やむを得ず外出する場合は、3密を避けましょう。

宴会、多くの人が集まるイベント、大人数での食事やカラオケなどは控えましょう。

2. 実施前の案内・告知

① 受付時の案内(注意)

■ メールや電話による 受付時

開催案内に以下内容を追加するとよいでしょう。



例1

「※来訪時、直接会場にお入りにならないでください。
受付(入口)にて、検温、手指の消毒、マスクの着用を確認をさせていただきます。
その後、教室にお入りいただくこととなります。」

例2

「※臨床美術参加の際、朝体温を測り体調を確認し、入室時は手洗い消毒とマスク着用をお願いします。また、参加者同士の距離を保っていただけますよう、お願いいたします。」

② ホームページやSNSでの案内

■ ホームページの新着情報に参加の際の注意を掲載

主催者の感染対策の取り組みを案内し、多方面から受講、参加を検討している人に対策を理解してもらいましょう。



3. 実施準備



① 受付や会場入口

■ 実施前当日確認 参加者用に体温計、消毒用アルコールの設置

参加者、及び付き添い等で会場に入る方に手指の消毒を実施してください。
会場に立ち入る方全員に検温をしましょう。

■ 受付等スペースを設ける場合には飛沫感染防止パネルやビニールカーテンを設置

飛沫感染を防止するために、アクリルパネルや、釣り下げ型のカーテンを設置し、対応はカーテン越しに行いましょう。
マスク着用確認、手指消毒の案内、申込受付、出欠確認等。
受付など不特定多数と接する方は、フェイスシールドを着用することをお勧めします。

■ 順番待ちの立ち位置

入口付近から廊下にかけて養生テープなどで順番待ちの立ち位置を付け、
間隔が詰まらないよう、声かけをしましょう。



■ 受付や会場前に案内

案内板を設置して、入室前に受付等で検温を受けること、手洗いの奨励、手指消毒、ソーシャルディスタンスの厳守などを案内しましょう。

② 会場室内

■ 換気の確認

会場が十分換気できる部屋かどうか確認してください。
エアコンだけで換気できない部屋では、臨床美術の実施は避けましょう。
1時間に数回、窓やドアを開放しましょう。

■ 入口に案内板を設置

入室前に受付に立ち寄り、以下を実施後に入室の案内をしましょう。

- ・ 検温
- ・ 手指消毒
- ・ マスク着用

その他、手洗いの奨励、ソーシャルディスタンスの厳守などを案内しましょう。

■ 手指消毒用アルコールの設置

出入口ドア付近に専用ボトルを設置し、出入りの際、必ず手指の消毒をしてください。

消毒用アルコールに過敏な方もいます。石鹸＋流水での手洗いでも十分な効果がありますので、運営の際はご配慮ください。

■ 流し台に石鹸の設置

教室に流しがあれば、手洗い等をトイレで行わずできるよう設置しましょう。



■ 消毒液

実施前に机やイスの消毒、備品や教材等の消毒に使用するために準備します。



4. 会場準備



① 机やイスの準備(セッティング)

会場内の机・イスのセッティングなど、セッションで使用するものを準備します。

② 備品類の消毒・洗淨



- ・ 会場内の机・イスをセッティングする際、備品専用の消毒液スプレーを吹きかけて消毒してください。

- ・ 会場のドアノブなども両側消毒してください。



- ・ PC、CDラジカセなど電子機器に消毒液を吹きかけないように注意しましょう。消毒したい場合はティッシュなどに消毒液を吹きかけてそのティッシュで拭き、過度に湿らせて拭かないよう注意してください。

不特定多数の方が使うパソコンならばキーボードに密着するようにビニールカバーをすることをお勧めします。

使う前には、ビニールカバーの上をアルコールで消毒します。

- ・ およそ15～20秒くらいで消毒完了となるが、液体が残っているようならティッシュなど捨てられるものでふき取りましょう。
- ・ 机、イス以外の備品類の消毒は紙類などもあるため、適宜対応してください。
- ・ 臨床美術終了後、机・イス、ドアノブなどを消毒液スプレーで消毒してください。
- ・ 包丁、まな板などを使用した際もお湯などで食器用洗剤を使用してきれいに洗いましょう。

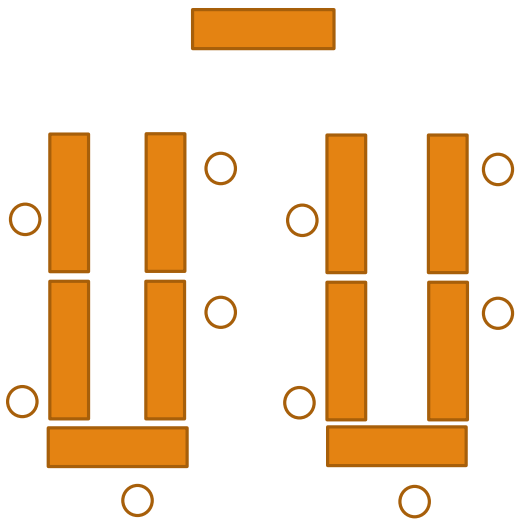
5. 3密を防ぐレイアウト

3密(密閉・密集・密接)を避け、会場レイアウト(最大人数)は、参加者間が十分な距離を保ち、対面にならないよう配置しましょう。

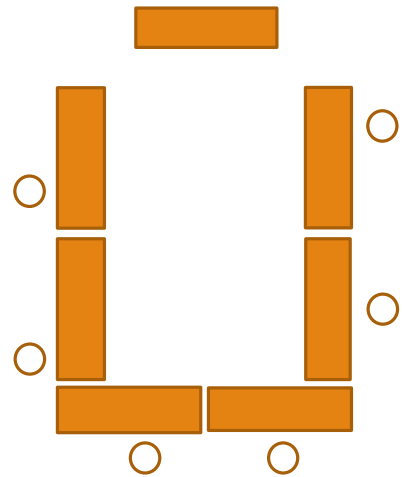
事前に会場の定員を考慮して上限を決め、定員を超える場合は会場変更や、2クラス対応などを検討してください。

会場レイアウト例

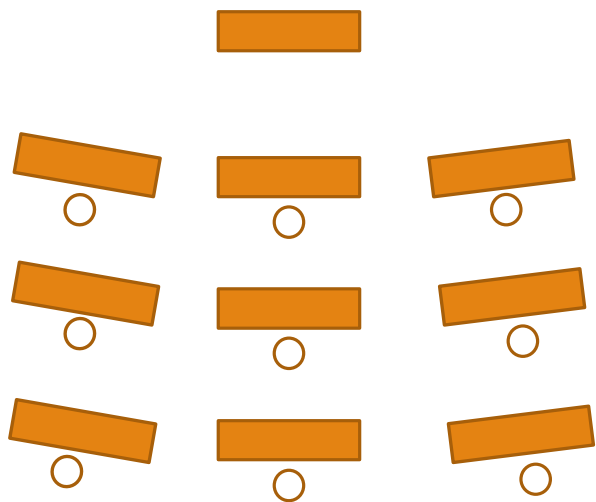
アートセッション



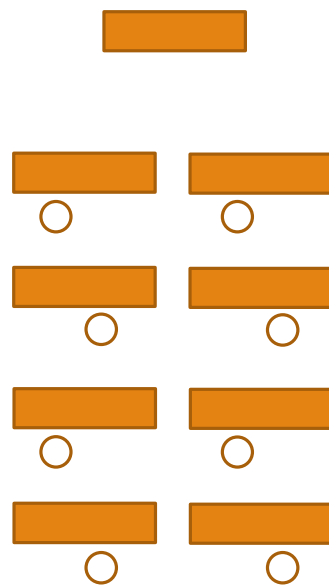
コの字形式 = 10名



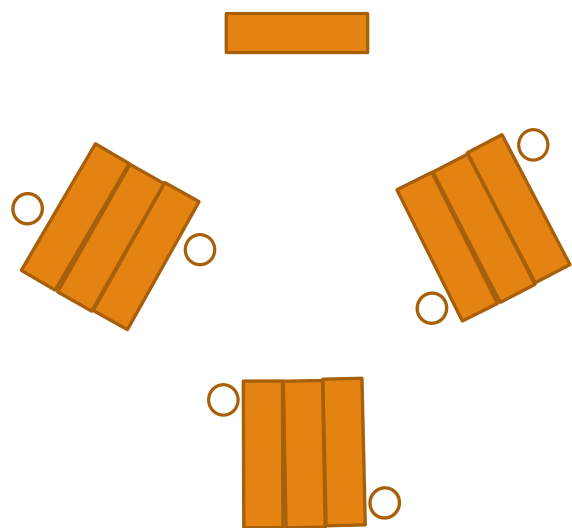
コの字形式 = 6名



スクール形式=9名



スクール形式=8名



アイランド形式=6名

6. 会場入室時の流れと注意

① 入室前確認



■ 入室前に以下内容を確認してください。

- ・手指の消毒：受付や入口設置の消毒用アルコールで消毒します。
- ・マスク着用：マスクの着用を案内し、スタッフが着用を目視確認します。
- ・検温：スタッフが非接触型の体温計で受講者の体温を測りましょう。

以上で問題がなければ入室を許可し、該当の会場、席を案内します。
マスクがない場合は入室を許可しない。予備を提供するか購入してもらいましょう。
受付確認後にトイレなどに立ち寄る際の注意もこの時点でするようにしましょう。

■ 体調が悪い場合は入室(参加)をお断りする

事前の連絡の際も同様に案内しましょう。



② 会場入室後

■ 消毒と過ごし方

出入りの度に手洗いと消毒を実施してください。

講師も同様に消毒を心がけ、見せることで当たり前の行動として習慣づけましょう。
セッション中はマスクを着用し、他の参加者ともなるべく距離を保って行動しましょう。

■ 荷物

床の直置きは禁物。

土足で歩いているので、菌がいる可能性があるため、荷物の直置きはしないように声をかけましょう。（荷物置き場を設置）



■ マスクの着用

臨床美術の実施中はマスク着用をお願いしましょう。

面倒くさい、息苦しいといって外してしまう参加者への対応について留意しましょう。
年齢や施設の方針なども考慮して案内してください。



7. 実施上の留意点

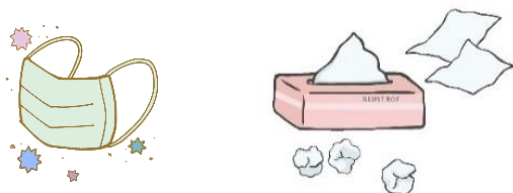
- ・ できるだけ参加者同士の位置が離れる(1m以上)ように配慮しましょう。
- ・ 飲食を伴うアートプログラムの実施や、実施に試食を伴うものは控えましょう。
- ・ 至近距離で対面となるコミュニケーションを避けて、できるだけ離れた状態で、飛沫感染を防ぐために大きな声で話したり、盛り上がりすぎたりしないよう留意し、実施しましょう。
- ・ 実施中、臨床美術士が援助する際は参加者となるべく距離を取って話しかけ、対面での援助は避けましょう。
- ・ 臨床美術士が画材等を配布する場合は、手指をアルコール消毒し、参加者間での受け渡しをしないよう配慮しましょう。
- ・ 換気は空気が流れができるよう、対角線上に2方向の窓を開けましょう。
1時間に2回以上、数分程度窓を全開にします。窓がない場合は、換気装置をフルにしてドアを開放する、扇風機を利用するなど工夫しましょう。
エアコンだけで換気できない部屋では、臨床美術の実施を避けましょう。

8. ゴミの扱いと処理



① 捨てる時の注意

- ・ 分別をし、会場内のゴミ箱に食べ物(モチーフ含む)や飲み物のゴミを捨てないように注意してください。



- ・ マスクや鼻をかんだり、口を拭いたりしたゴミなどの廃棄も基本的に参加者が個人で管理し、会場内のゴミ箱には捨てない(スタッフも同様)ようにしましょう。
- ・ ゴミは、基本的に担当した臨床美術士がゴミ集積所等に廃棄してください。

② 処理後

- ・ ゴミ処理後は手洗いと消毒を徹底してください。



創造の喜びを共有する

いまだからこそ、できること、伝えられることを

コロナ禍以前と比べ、マスクをしているために互いの表情は読み取りにくい、会話が聞き取りづらい、ソーシャルディスタンス確保のため物理的距離感が生じてしまうなど、これまでにはなかった実施上の様々な障壁が起こると思います。

しかし、臨床美術セッションの本質は、参加者の方々が感覚を解放し、イメージを広げ、個人の表現行為に没頭し、それぞれの世界観を表現することに意義があり、それらを見守り、具体的な言葉で認め、伝えることが重要だと思います。

以前と比べて出来なくなったことも多々あるかと思いますが、この状況だからこそ出来ること、気づくことを大切に、参加者と能動的な時間を共有していただくことが、アートを通じた心身の健康へと効果を発揮するでしょう。

しかし、感染防止対策が最優先課題であることは変わりません。リラックスしてくると、コミュニケーションが活発になったり、うっかり互いの距離が近づいたりしてしまうこともあるでしょう。常に臨床美術に参加している全ての方々と「感染しない、感染させない」感染予防対策の徹底をお願いします。

尚、実施にあたっては、参加者、施設管理者等と十分な検討の上、くれぐれも無理な実施とならないよう留意してください。

発行 2020年10月10日
制作 日本臨床美術協会
協力 芸術造形研究所
監修 高見澤 勝(東京家政大学教授 医師)